

2019年7月

「海の日」にあたって

一般社団法人 日本造船工業会
会 長 さい 齋 とう 藤 たもつ 保

令和の時代、最初の「海の日」を迎えるにあたり、あらためて海について思いを巡らせ、海の恩恵に深く感謝し、海洋国家日本の繁栄を皆様とともに祈念いたしたいと思います。

顧みますと、四方を海に囲まれているわが国は、古来より海を通じてたくさんの人や物資が行き交い、様々な文化を受け入れ、今日の繁栄を築いてきました。現在においても、経済を支えるエネルギー資源や様々な物資を海上輸送で受け入れ、豊かな水産資源や海洋資源の恩恵を受けています。正にわが国は海に支えられています。

造船業は、長年にわたり信頼性の高い船舶を建造することで、世界の海上貿易を支え、わが国経済の発展に貢献して参りました。近年、海洋においても二酸化炭素（CO₂）や窒素酸化物（NO_x）、硫黄酸化物（SO_x）などの排出規制が強化され、地球環境保護への取り組みが活発化しております。造船業は、世界に誇る高度な建造技術と最先端の環境技術を活かし、次世代省エネ船や高環境性能船、LNG燃料船など環境に優しい高性能な船舶の開発・建造を進めることで、地球環境の改善に貢献して参ります。

一方、海洋は無限の可能性を秘めたフロンティアであり、わが国は世界第6位の排他的経済水域を持っています。海洋基本法の下、3期目に入った新しい海洋基本計画に沿って海洋の開発と利用を進める体制の整備が加速され、海洋の活用範囲は拡大していくものと思われまます。造船業界といたしましては、再生可能エネルギーを活用した洋上風力発電・潮流発電・波力発電、海底資源開発などの海洋新産業の創生に果敢に挑戦し、未知のフロンティアを切り拓いていきたいと考えています。

さらに、造船業は船舶の安定供給、高度な艦艇・巡視船艇の建造を通じ、わが国の経済、安全保障はもとより、地域密着型の産業として地方創生に大いに貢献し、地方からわが国を元気にしていきたいと思ひます。

こうした海と船、海的环境を守ることの大切さを広く地域の皆様、特に若い皆様に知って頂くため、造船業として、政府や日本財団が中心となって推進している「海と日本プロジェクト」「海洋ごみ対策プロジェクト」について、造船所見学会の実施や海岸清掃への参加など積極的に協力しています。

さて、「海の日」は、明治9年に明治天皇が東北ご巡幸からお帰りの際、灯台巡視船「明治丸」に乗船され無事横浜にお帰りになられた日（7月20日・「海の記念日」）に由来し、平成7年に「海の記念日」が「海の日」として国民の祝日に制定されました。しかし、

現在「海の日」は7月第3月曜日とされ、7月20日が「海の日」とされた本来の歴史的意義から次第にかけ離れ、この日に対する国民の皆様の意識が薄らいでいることは、誠に残念なことです。是非、「海の日」を7月20日に固定して頂きたいと思えます。

「海の日」を契機として、海洋国家日本に生まれた多くの方々、特にわが国の将来を担う若い世代の皆様に、海をもっと知って頂き、造船業をはじめ、海に携わる海事産業に興味を持って頂くことを期待しています。造船業は未来を切り拓く新しい技術の開発を通じてより一層社会に貢献していく所存ですので、今後とも皆様の一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

以 上